



Sergei Rachmaninoff 1873-1943

音の記憶

Rachmaninoff & Isadora



Isadora Duncan 1877-1927

Program

Etudes-Tableaux, Preludes

Mary Sano & Masaki Saito

同世代に生きた2人の天才。イサドラとラフマニノフは果たして出会っていたのだろうか？
音の中に生きる記憶は、メアリー佐野と斎藤正樹によって、新たな光となって甦る。



2019/4/20 (土) 19時開演

代官山教会 (渋谷区代官山町14-3)

4000円 (当日) 3500円 (前売)

全自由席

ご予約・お問合せ：info@duncandance.org

saito.piano.art.society@gmail.com

Profile



メアリー 佐野

ダンカン・ダンス 3 代目継承者、ダンサー、コリオグラファー。ミニヨン・ガーランドの愛弟子で、1979年よりサンフランシスコにてダンカン・ダンスを学び始める。自然でスピリチュアルなこのダンスに魅了され1983年にイサドラ・ダンカン・ヘリテッジ・ソサエティ・ジャパンを東京に創立。カリフォルニア・ミルズ大学舞踊学部大学院修士課程修了後、1993年にメアリー佐野とダンカンダンサーズを結成、以来サンフランシスコを中心に国際的に公演活動が続けている。指導者、またアーティストとしてイサドラ・ダンカンから踊り継がれた古典作品を継承しながら、多くのオリジナル作品を創造している。代表作に「Letters from Isadora」(2018)、「イサドラとみる夢」(2015)、「Ship of Dreams: 咸臨丸」(2010)、「アマテラス、盲目の女 そしてヒロシマ」(2004)などがある。1997年にMary Sano Studio of Duncan Dancing (www.duncandance.org) をサンフランシスコに設立して以来、例年5月のイサドラ生誕祭や舞踊・音楽・演劇ら多くの公演を開催し、自身の公演・創作活動のみならず、後進の育成にも力を注いでいる。

出版物として、フレドリカ・ブレア著「踊るヴィーナス-イサドラ・ダンカンの生涯」パルコ出版(1990)、イルマ・ダンカン著「イサドラ・ダンカンの舞踊テクニク」(2010)がある。NHK「映像の世紀」にはイサドラの役で出演している。



齋藤 正樹

早稲田大学第一文学部卒業、上智大学大学院文学研究科修了。ピアノは3歳よりはじめる。少年期をアメリカで過ごし、現地でNYスタインウェイの音色に魅せられる。ロマン派後期と言われる時代の作曲家に特別な思い入れがあり、ラフマニノフ、スクリャービン、アルベニス、モンボウなどの作品を主なレパートリーとする。他にも特にロシアの作曲家の知られざる名曲を発掘し演奏することをライフワークとしている。近年ではラフマニノフ、R.シュトラウス、マーラーなどの歌曲や管弦楽曲をピアノ独奏用に編曲することに力を注いでいる。2016年7月に齋藤自身がピアノ編曲を行ったラフマニノフ作品を中心としたデビューアルバム「齋藤正樹ピアノの世界「夢」」をリリース。

「これほど個性的なプログラミングのCDは世に稀だが、齋藤はそれを、しっかりと自分の身につけた詩的かつ内面的、余韻をおびた表現により弾き表わす。忘れがたいほどの「何か」を秘めたCD」(レコード芸術、濱田滋郎氏評)

2019/4/20 (土) 19時開演(18時30分開場)

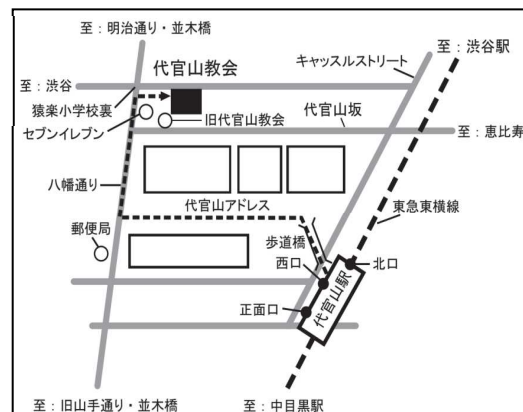
日本基督教団代官山教会

(渋谷区代官山町14-3)

4000円 (当日) 3500円 (前売)

ご予約・お問合せ: info@duncandance.org

saito.piano.art.society@gmail.com



代官山駅より徒歩5分、恵比寿駅より徒歩10分